

金沢工業大学

【特別奨学金制度(KITリーダーシップアワード)】



制度の目標・目的

金沢工業大学の教育目標である「自ら考え行動する技術者」に向けて、「授業等の正課」と「KIT オナーズプログラム等の課外活動」の両面で優れた成果を修め、リーダーとなる人材の育成を目指す制度として設立した。

入学後のモチベーションの向上と継続的な成長支援を目的としている。

2009年4月に特待生募集検討委員会から理事長宛に検討内容の答申があり、翌2010年度入試から施策を実施した。本学のアドミッションポリシーを理解し、確かな基礎学力と豊かな人間性を有する目的意識の高い新入生を入学させたいとの思いから立ち上げた制度である。当制度の広報を通じて、本学の強みであるプロジェクトデザイン教育の成果が受験生や保護者へ届くことやブランド力向上も大きな目的の一つである。

制度内容

特別奨学生にはスカラシップフェローとスカラシップメンバーの2種類がある。

本制度は学生の成長とリーダーシップの育成を目的としており、経済的支援を基準としていない。そのことから、学生の入学後のモチベーション向上と成長支援を継続的に実施する人材育成システムを構築し、奨学生には以下への参加・取り組みを義務付けている。

- (1) オナーズプログラム活動
- (2) リーダーシップアワード生講座
- (3) 自己成長ポイントの獲得

学長を委員長とする「特別奨学生選考委員会」が設置されており、入学にあたって高い目的意識と勉学意欲を有し、かつ学業成績が優秀な者を特別奨学生としている。

3年次以降の継続審査では、先述の活動に取り組んでいることのほか、成績基準も設けている。その基準は学生の約3割が該当するライン設定であり、学生の自己成長を前提とし、その伸びしろを考慮した選考方法となっている。

実施後の変化

先述制度内容の(3)自己成長ポイントの獲得は、奨学生以外の学生も参加・取得が可能な制度となっており、必要ポイントを獲得できれば奨学生にエントリーも可能となる。そのため学生間において、奨学生に選ばれた学生と自分自身とを比較することで、学生自身が自らの努力ポイントを見つけることができたり、自分でも奨学生になれるのではないかと対抗意識が芽生えたりと、多くの学生が学業や課外活動への取り組み方が積極的になるといった良い変化が見受けられた。

一方で活動評価の際に、その実態の確認が難しいという問題点もある。また、プログラムの義務化により、ポイントが取得しやすいプログラムを選択する学生がおりプロジェクトのモチベーションが下がることや、制度途中で退学や転学をする学生がいることにも苦心している。

今後の課題・展望

国立大学との併願で、第一志望の入学でなかった学生のモチベーション向上とフォローが課題である。

本制度は、あくまでも学生の頑張りや成長を目的としており、経済的支援を基準としていないため補助金申請を行っていない。

今後、国が新たに始める授業料減免制度とあわせて、本学を第一志望とする志願者が増えるよう努めたいと考えている。